



薬物から子どもたちを守ろう

近年では、SNS（ソーシャル・ネットワークキング・サービス）の利用をきっかけに違法薬物に関する情報を得てしまい、薬物を乱用してしまう子どもは少なくありません。そこで今回は薬物乱用の恐ろしさや乱用される薬物の話をします。

本来、薬は使い方が正しければとても役に立つものですが、薬を医療目的以外に使ったり、シンナーなどの医療目的にない薬物を不正に使ったりすることを薬物乱用といいます。薬物乱用の恐ろしい点は、人間が生活していくうえで最も大切な脳を侵してしまふところ。薬物によって一度ダメージを受けた脳は、決して元の状態には戻りません。また、薬物を乱用することで心身に深刻な影響を

与え、健康を損なうとともに、使用を重ねたくなる薬物依存を引き起こすことがあります。薬物依存になると、自分の意思ではやめることができないため、使用した本人だけでなく周り全ての人を不幸にしてしまいます。

乱用される薬物と聞くと覚せい剤や麻薬などを想像しがちですが、最近では合法ハーブなどと称される違法薬物があります。合法ハーブは、法規制を逃れるためにアロマやお香などとして店舗やインターネット上で販売されていて、子どもでも簡単に入手できてしまいます。合法ハーブはあたかも身体影響がなく、安全であるかのように思われますが、麻薬や覚せい剤と同様に危険な違法薬物です。このように薬物が本来持っている危険性や薬物使用の抵抗感を覆い隠し、子どもを誘惑するのです。

子どもたちが薬物の被害に遭わないためには、誤った情報を入力してしまわないように危険な情報を遮断するとともに、日頃から家庭の中で薬物の恐ろしさを教えることが重要です。そして、周囲の大人が決して薬物に手を出さない、薬物乱用を許さないという社会環境を作り、薬物から子どもたちを守っていきましょう。

特別支援教育便り

▽問い合わせ 学校教育係
(☎223局3547)

特別支援教育コーディネーター

小中・高等学校に特別支援教育コーディネーターという役割を担う教員がいることを知っていますか。

特別支援教育コーディネーターは、児童生徒への適切な支援のために、さまざまな役割を担っています。その役割の一つに、子育ての上で困っている保護者に対する相談窓口になることがあります。

教育上特別の支援を必要とする相談がある場合は、担任と連携しながら特別支援教育コーディネーターが対応することで、子どもにとって望ましい支援や指導の仕方を考えることができます。また、必要があれば外部機関と連携し、子どもにあったサポートの在り方を考えることもできます。

芦屋町の小・中学校では、外部機関との定期的な連携として、次の3つがあります。

1 各学校で年間6回、臨床心理士による巡回相談を行っています。臨床心理士に学校での子どもの様子を見てもらい、保護者の相

談を受けたり、子どもと面談をしたりすることができ



2 各学校で年間7回程度、スクールカウンセラーによる面談などを行っています。主に子どもや保護者の相談を受け、心理面をサポートすることが出来ます。

3 各学校に週1回、スクールソーシャルワーカーが来校し、子どもや保護者の相談を受け、子どもが困っていることを保護者や学校、地域と協力して環境面からもサポートをします。

専門家とつながることで、子どもが困っている根本的な部分がどこにあるのかを分かって、具体的に

特別支援教育とは、一人ひとりのニーズに応じた適切な支援を行っていく教育のことです。「一人ひとりみんな違う」のですから「みんな特別」です。つまり、「一人ひとりを大切にする」のが特別支援教育です。子どものことで気になることがあれば、気軽に学級担任や各学校の特別支援教育コーディネーターまで問い合わせください。

芦屋東小学校 梁井佳子
※参考文献「特別支援教育コーディネーターガイド」

芦屋中学校

Zoom 配信による リモート「生徒総会」・「1学期終業式」

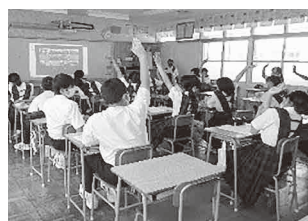
今年度は新型コロナウイルス感染予防の観点から「生徒総会」・「終業式」を Zoom 配信で行いました。校長室を動画配信スタジオとして各教室へとつなぎ完全生中継で行いました。

生徒総会では、各専門委員長が取り組みの説明を行い、各クラス代表が意見や要望、質問をしました。そして、賛成した人の挙手の数を、各教室を写した画面をとおして校長室で把握し、意見を集約しました。画期的な初めての取り組みでしたが、スムーズに進行し、生徒は真剣な姿で参加していました。

終業式では、校歌を静かに聴くことから始まり、

校長先生の話へと進行していきました。その話の中では、来校した皆さんが芦中生の授業態度やあいさつなどを称賛していること、また、成長するために、「実力がなければ結果を求めることはできない」という将棋のプロ棋士・藤井聡太さんの言葉を紹介していました。式終了後に、各部活動のキャプテンが、3年生にとっては最後となった夏の大会の成果と感想を述べ、そして後輩へあたたかいメッセージを送りました。

生中継の Zoom 配信ということで、出演する生徒たちは緊張しないか心配でしたが、さすが現代っ子！堂々とした姿で、まるでテレビ番組を視聴しているかのようでした。（教頭 石松 誠）



学校での出来事を先生たちがお届け!!

山鹿小学校

このコロナ禍で、マスク着用や消毒などを行う「新しい生活様式」で過ごすことになった1学期でした。2学期に入り、感染対応事例などを踏まえ、学校生活の一部がこれまでどおりに戻りました。

今回は、2学期の学校生活の様子を紹介します。

●ICTを活用した2学期始業式

コロナ禍の影響で大きく変わろうとしているのは、校内のICT活用です。特に、離れた教室をオンラインでつなぎ、双方向で音声や映像のやり取りを行う Zoom を活用することが増えてきました。

2学期の始業式ではオンラインで校長先生の話があり、「昨晚、午後9時30分までに寝た人？」という質問に、手を挙げて反応する児童たちの様子



子が、クラスごとにスクリーンに映し出されました。児童たちは話をしっかり聞きながら、始業式に臨んでいました。

●1年生児童による給食の配膳

1学期の給食配膳は職員が行いましたが、2学期からは児童たちが配膳を行うようになりました。特に1年生は、自分たちで配膳することを喜び、楽しそうに給食当番をしています。配膳する際も、食事をこぼさないように、丁寧につぎ分けています。



●清潔を保つ掃除の時間

8月に「清掃により清潔な空間を保ち、健康的な生活により児童生徒等の免疫力を高め、手洗いを徹底すること」と、文部科学省から示されました。これを受け、2学期からは掃除の時間も通常通り行い、新型コロナウイルス感染対策に引き続き努めています。



（教頭 吉川 亨）